

機関番号：12601

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17083009

研究課題名（和文） 宋元明における仏教道教交渉と日本宗教・思想

研究課題名（英文） Interactions between Buddhism and Daoism in Song-Yuan-Ming Period and Japanese Thoughts

研究代表者

横手 裕 (YOKOTE YUTAKA)

東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授

研究者番号：10240201

研究成果の概要（和文）：中国の宋・元・明時代に仏教と道教で起こった新しい動きが、同時代以降の日本の宗教や思想にどのような影響を与えたか多角的に考察した。中でも大きな研究の中心を日本における大蔵経の受容とし、大蔵経をテーマとするシンポジウムの開催や東京大学総合図書館所蔵明版嘉興大蔵経の詳細な目録の作成が行われた。

研究成果の概要（英文）：This project considered the influence of interactions between Buddhism and Daoism in Song-Yuan-Ming period upon Japanese thoughts from different angles. We selected the acceptance of Chinese Tripitaka in Japan as the most important topic, and in the last year held a symposium on Tripitaka, made a detailed catalogue of Jiaying-Tripitaka owned by General Library of the University of Tokyo.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	5,900,000	0	5,900,000
2006年度	5,900,000	0	5,900,000
2007年度	5,900,000	0	5,900,000
2008年度	5,900,000	0	5,900,000
2009年度	5,900,000	0	5,900,000
総計	29,500,000	0	29,500,000

研究分野：中国哲学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：仏教，道教，日本思想，中国思想，大蔵経

## 1. 研究開始当初の背景

中国では、儒・仏・道の三教が思想の三本柱となり、相互に影響を与えあいながら思想史を展開したといつてよい。中国の思想史を考える上で、三教間の思想・教説の動きを無視するわけにはゆかないのは、誰しも認めることである。しかし、従来の研究の大部分は儒・仏・道のそれぞれの個別の研究であり、三教の関係の研究は少数であった。仏教・道教の関係の研究はある程度行われてはいたが、宋代以降に関しては極めて少なく、最も立ち遅れている部分と言ってもよい。そして

その関係の研究を踏まえて中国思想から日本思想への影響を考える作業は、やはり一層遅れている状況であった。

## 2. 研究の目的

本研究は、宋・元・明の時期における中国の仏教と道教の状況と関係を多角的に調査し、それらが僧侶などの人や、経典などのモノを通して日本にどのように伝わり、さらに日本の中でどのような展開をみせたかをできる限り詳細に調査し、そこから広く近世日

本の宗教・思想文化（仏教、神道、修験道、儒教等）にいかなる影響があったかを考察することを目的とした。特に宋代以降に中国で成立した比較的新しい仏教經典と道教經典が、具体的に日本へどのように伝わり受容されてゆくかについて、解明を目指した。

### 3. 研究の方法

(1) 研究組織全体として共同して取り組んだ課題は、長らく詳細が不明のまま放置されていた東京大学総合図書館所蔵の明版大蔵經（いわゆる万曆版大蔵經、嘉興藏）の調査である。研究期間全体を通して、この大蔵經について、アルバイトを十数名使いつつ詳細な調査を行い、総合的な目録を完成させた。またこの東大本嘉興藏の印記等の調査により、東大総合図書館へ収蔵されるまでの非常に興味深い伝来経路が明らかになった。この伝来の経緯を含め、挿図などの画像資料や出版事項などに関する研究も含めた総合的な研究論文集も作製した。今後もこの大蔵經自体が中国で明から清にかけて出来上がってゆく過程まで含めて、仏教經典の形成と伝来と流伝、およびそれによりもたらされた思想的、文化的影響等についての多角的な解明が可能と考え、研究代表者と分担者は更なる研究を継続している。

(2) 以上の共同研究とともに、各自の個人研究が進められた。

まず道教經典の伝来について研究している研究代表者の横手は、清末から中華民国期以降には日本人の道教系の著書が中国に対して影響を与えるケースがあることに着目している。これは、近人の蕭天石によりまとめられた道教典籍の叢書「道蔵精華」の研究を進めることにより明らかになった成果である。横手は研究分担者のアドバイス等も参考にしつつ、独自にこの「道蔵精華」の目録作成もを行い、『道蔵精華目録』が完成した。研究分担者の末木文美士は、以前より進めていた高山寺文献の調査を継続し、日本における仏教經典史の研究を深めた。また、前近代から近代へと向かう日中の思想史の比較も行い、関連する数々の著作を世に問うた。同じく末木恭彦は、日本の儒教文献の調査を進めつつ、仏教思想との関係の考察を行った。同じく渡辺麻里子は、高野山および比叡山を中心に日本各地の大蔵經の実地調査を精力的に進めた。またその調査経験を基に、東大総合図書館の大蔵經調査の指導的役割を担った。同じく菊地大樹は、日本中世仏教における持經者の存在に注目した研究を進め、著書にまとめて出版した。また台湾仏教史と日本仏教史との比較という新しい試みを開始

した。

このように、明版大蔵經の調査研究を中心にする一方、各自がこれに関連する問題についての研究を鋭意進め、豊饒な成果を収めた。

### 4. 研究成果

下記の出版物の刊行、およびシンポジウム等の開催等が行われた。

(1) 『東京大学総合図書館所蔵嘉興大蔵經目録と研究 I 目録編』、横手裕、末木文美士、渡辺麻里子、菊池大樹（監修）、科学研究費補助金成果報告書、全 514 頁、2010 年

(2) 『東京大学総合図書館所蔵嘉興大蔵經目録と研究 II 研究編』、横手裕、末木文美士、渡辺麻里子、菊池大樹（監修）、科学研究費補助金成果報告書、全 297 頁、2010 年

(3) 『道蔵精華目録』、横手裕（編）、科学研究費補助金成果報告書、全 268 頁、2009 年

(4) 『東京大学総合図書館所蔵万曆版大蔵經（嘉興藏）正編目録稿』、横手裕、末木文美士、渡辺麻里子（監修）、科学研究費補助金成果報告書、全 353 頁、2008 年

(5) シンポジウム「大蔵經と東アジア世界」開催、日時：2009 年 9 月 1 日、場所：東京大学本郷キャンパス法文 2 号館 2 番大教室

(6) 資料展示「大蔵經と東アジア—東京大学総合図書館所蔵嘉興藏の世界—」開催、開催期間：2009 年 8 月 25 日～9 月 15 日、場所：東京大学総合研究博物館

(1)は(4)を基礎としつつまとめた東京大学総合図書館所蔵嘉興藏の目録の完成版であり、(2)はその東大本嘉興藏の特徴や伝来過程を詳しく考察した総合的な研究の成果である。現在、日本や中国・台湾など各地で進められている個別の嘉興藏の目録のうちでも最も詳しいものの一つであり、米国の図書館から請求が来るなど関係分野で注目された。

(3)は台湾の自由出版社から発行されている道教文献の叢書「道蔵精華」の目録である。「道蔵精華」は複雑な出版事情から収録文献の全体像の把握が容易ではなかったが、本目録によってようやく叢書全体の俯瞰と収録文献の検索が手軽に行えるようになった。

(5)は本研究の総括の一つとして行われたシンポジウムである。大蔵經研究で著名な学者を招き、東大本嘉興藏の調査で得られた研究成果を発表して意見を伺い、合わせて東ア

ジア文化の中の大蔵経について大きな視野から考え討論する試みを行った。当初の予想を大きく越える100人近い参加者があったほか、中外日報などのメディアでも取り上げられるなど大きな反響があった。

(6)は(5)の開催にあわせて行われた嘉興蔵に関する資料展示会である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

上記4に挙げたもの以外では、以下の成果発表がある。

[雑誌論文] (計16件)

①横手裕、道教における「本然の性」と「気質の性」、三教交渉論叢、京都大学人文科学研究所、査読無、2005、pp. 263-287

②末木文美士、仏教と夢、文学、査読無、第6巻5号、2005、pp. 36-42

③末木文美士、禅と女性の思想形成、禅文化研究所紀要、査読無、28号、2005、pp. 582-592

④横手裕、張宇初の齋法観とその周辺—南昌派考察序説—、道教の齋法儀礼の思想的研究、知泉書館、査読無、2006、pp. 117-136

⑤横手裕、道教於「本然之性」与「氣質之性」之言説、興大歴史学報(台湾)、査読無、第17期、2006、pp. 27-40

⑥末木文美士、近世仏教の思想、ザ・グレイトブッダ・シンポジウム、査読無、第4号、2006、pp. 7-16

⑦渡辺麻里子、『定西法師伝』について—下部景衡本の出現—、国文学 解釈と鑑賞、査読無、第71巻10号、2006、pp. 128-134

⑧渡辺麻里子、道明寺天満宮蔵『妙法天神経』について、『説話文学研究』、査読有、第41号、2006、pp. 1-14

⑨渡辺麻里子、『本朝大師先徳明匠記』について、『天台学報』、査読有、第48号、2006、pp. 75-84

⑩渡辺麻里子、中世における僧侶の学問、弘前大学国語国文学、査読無、第28号、2006、pp. 30-52

⑪横手裕、道教思想史研究をめぐって、中国—社会と文化、査読有、第22号、2007、pp. 260-269

⑫末木文美士、思想と思想史—葛兆光氏の近業をめぐって、思想、査読無、1001号、2007、pp. 31-49

⑬渡辺麻里子、了翁禅師の一切経寄進について—叡山文庫生源寺蔵鉄眼版一切経と天台宗寺院への寄進、山家学会紀要、査読無、9号、2007、pp. 21-36

⑭横手裕、一人で行う亡魂救済—鄭思肖の太極祭鍊内法—、アジア遊学、査読無、110号、

2008、pp. 10-17

⑮菊地大樹、中世寺院における堂衆の活動と経済基盤—東大寺堂衆を中心に—、寺院史研究、査読有、12号、2008、pp. 1-38

⑯末木文美士、迷走する親鸞、季刊日本思想史、査読無、75号、2009、pp. 113-124

[学会発表] (計5件)

①末木文美士、四国遍路の形成、日本印度学仏教学会、2007.9.11、四国大学

②横手裕、鄭思肖『太極祭鍊内法』与祭鍊法諸派、海峡兩岸宗教文化与經濟社会發展學術研討会、2008.6.27、中国泉州・華僑大学

③菊地大樹、The Ferocious General on the Dharma Stage —The Development of Scriptures around Jien—、American Academy of Religion 2008 Annual Meeting、2008.11.2、Hilton Hotel, Chicago, USA

④菊地大樹、東福寺円爾の印信と法流—台密印信試論—、鎌倉遺文研究会、2009.6.25、早稲田大学

⑤末木文美士、現代における浄土教の課題、龍谷大学真宗学会、2009.11.10、龍谷大学

[図書] (計6件)

①末木文美士、仏教 vs. 倫理、筑摩書房、2005、252p

②末木文美士、日本仏教の可能性、春秋社、2006、227p

③菊地大樹、中世仏教の形成と展開、吉川弘文館、2007、312p

④横手裕、中国道教の展開、山川出版社、2008、90p

⑤末木文美士、鎌倉仏教展開論、トランスビュー、2008、326p

⑥末木文美士、仏典を読む、新潮社、2009、319p

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等  
なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

横手 裕 (YOKOTE YUTAKA)  
東京大学・大学院人文社会系・准教授  
研究者番号：10240201

### (2) 研究分担者

末木 文美士 (SUEKI FUMIHIKO)  
国際日本文化研究センター・教授  
研究者番号：90114511

菊地 大樹 (KIKUCHI HIROKI)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号：80272508

渡辺 麻里子 (WATANABE MARIKO)  
弘前大学・人文学部・准教授  
研究者番号：30431430

(H17→18:研究分担者)

(H19→20:連携研究者)

(H20→21:研究分担者)

末木 恭彦 (SUEKI YASUHIKO)  
駒澤大学・総合教育研究部・教授  
研究者番号：60143335

(H19→20:連携研究者)

### (3) 連携研究者